

○「医療情報標準化指針」提案申請・採択状況

申請受付 番号	提案規格名〔 〕内は提出団体名)	状況	申請日	採択日	厚生労働省 標準規格 認定
HS001	医薬品HOTコードマスター 〔(財)医療情報システム開発センター〕	採択	2002/3/4	2003/5/23	認定
HS005	ICD10対応標準病名マスター 〔(財)医療情報システム開発センター〕	採択	2004/6/16	2004/12/28	認定
HS007	患者診療情報提供書及び電子診療データ 提供書(患者への情報提供) 〔日本HL7協会〕	採択	2006/3/28	2007/3/16	認定
HS008	診療情報提供書(電子紹介状) 〔日本HL7協会〕	採択	2007/12/26	2008/9/1	認定
HS009	IHE統合プロフィール「可搬型医用画像」お よびその運用指針 〔日本医療情報学会〕	採択	2008/1/7	2008/12/1	認定
HS010	保健医療情報－医療波形フォーマット－第 92001部:符号化規則 〔日本PACS研究会〕	採択	2009/1/26	2009/9/30	認定
HS011	医療におけるデジタル画像と通信(DICOM) (更新申請) 〔(社)日本画像医療システム工業会〕	採択	2009/8/6	2010/1/25	認定
HS012	JAHIS臨床検査データ交換規約 〔保健医療福祉情報システム工業会〕	採択	2009/12/7	2010/2/10	認定
HS013	標準歯科病名マスター 〔(財)医療情報システム開発センター〕	採択	2009/12/18	2010/9/20	－
HS014	臨床検査マスター 〔(財)医療情報システム開発センター〕	採択	2009/12/18	2011/1/31	－
HS016	JAHIS放射線データ交換規約 〔保健医療福祉情報システム工業会〕	採択	2011/3/8	2011/9/29	－
HS017	HIS, RIS, PACS, モダリティ間予約, 会計, 照 射録情報連携 指針バージョン3.2(JJ1017 指針 Ver3.2) 〔(公社)日本放射線技術学会〕	審査中	2011/4/19		
HS018	IHE統合プロフィール－XDS.b/XDS-I.b (ド キュメント／画像情報の施設間共有) 〔(一社)日本IHE協会〕	審査中	2011/5/26		
HS019	IHE統合プロフィール PIX/PDQ (患者IDの 施設間参照／問合せ) 〔(一社)日本IHE協会〕	審査中	2011/5/26		
HS020	IHE統合プロフィール－ATNA/CT (監査証 跡及びノード認証／時刻の整合性維持) 〔(一社)日本IHE協会〕	審査中	2011/5/26		

医療情報標準化推進(Health Information and Communication Standards : HELICS)協議会ホームページより引用
 <<http://helics.umin.ac.jp/>>

医療情報標準化指針提案申請書(新規・更新・追加・廃止)

申請受付番号	HS016	事務局受付日	2011 年 3 月 8 日	申請日	2011年3月8日
提案申請団体名 ・責任者名	一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 標準化推進部会 部会長 貴田 武実		規格作成団体名 ・責任者名	一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 標準化推進部会 部会長 貴田 武実	
提案規格案名 (版数)	和名	JAHIS 放射線データ交換規約			
	英名	The JAHIS Protocol for Radiology Data Communication			
提案規格案の目的、概要(提案規格案策定経緯及び決定プロセス)	和文	病院情報システム(HIS)と放射線情報システム間(RIS)、放射線情報システム(RIS)と医用画像保管通信システム(PACS)間、放射線情報システム(RIS)とレポートシステム間で発生する患者情報通知や放射線検査依頼に関する、HL7 Ver2.x に基づいて開発されたデータ交換規約である。なお、医用画像保管通信システム(PACS)やレポートシステムから放射線情報システム(RIS)への状態通知や、モダリティとの通信は対象にしていない。			
	英文	It describes communication procedures for radiology data based on HL7 2.x protocol which are interchanged among hospital information systems (HIS), radiology information systems (RIS), picture archiving and communication systems (PACS), and reporting systems (REPORT). But it does not describe communication procedures among modalities and RIS, also particular direction from PACS or REPORT to RIS.			
提案規格案の申請理由、適用領域、使用方法 (1)申請理由:「JAHIS放射線データ交換規約」の最新バージョンを登録するための申請である。 (2)適用領域:医療機関内の放射線検査に関わるデータ交換(目的、概要に示す範囲) (3)使用方法:放射線検査に関する、患者情報、依頼情報、患者到着情報、検査実施情報のデータ交換に使用する。					
関連他標準との関係(相違点及重複点の取り扱い方) (1)HL7V2.x標準を用いる他のJAHIS標準類、JJ1017、IHE-RADIOLOGYとの関連あり。 (2)関連団体として、日本HL7協会、日本IHE協会、日本画像医療システム工業会、Health Level Seven International					
提案規格案の関連情報	メンテナンスの方法(バージョン管理も含む) JAHIS医療システム部会相互運用性委員会にて、規程に基づいて3年以内に改廃の再検討を行い、必要に応じて改訂する。				
	入手資格 特になし。				
	入手方法 JAHISホームページから入手。				
	有効期限 特に期限設定なし。				
	価格等 無償				
	知的所有権:なし 著作権:JAHIS				
	添付資料 なし				
実務運用上の連絡者	・須藤 精 ・TEL:03-3506-8010 ・FAX:03-3506-8070 ・E-mail:sudou@jahis.jp				
特記事項	http://www.jahis.jp/jahis_hyojyun/seiteizumi_hyojyun/ (JAHIS標準類)				

※更新・追加・廃止の時は、以下の一項を選択し、旧規格名(和名)を記載する。	
指針の更新・改廃 の場合の旧規格と の関係	新規開発するシステムについては最新バージョンの適用が望ましいが、お客様のシステム環境に合わせて最適のバージョンを選択する。
更新時の新旧の相 違点	※バックワードコンパティビリティについても記入してください。 バックワードコンパティビリティはなし。 JAHISホームページに掲載している「放射線データ交換規約」の各バージョンを参照のこと。

※申請した指針は、毎年5月末までに見直しをお願いします。

事務局から問い合わせが行きますので、必要に応じて更新などの手続きをお願いします。

(2009.05.19 改版)

【規格名（和名）】

JAHIS 放射線データ交換規約

【規格名（英名）】

The JAHIS Protocol for Radiology Data Communication

【規格の目的（ユースケースを含む）】

医療環境が変化し、分業と連携が進むにつれ、医療現場では、標準化と客観化の重要性がより認識されるようになっていきます。また、一社で全てのシステムを構築するよりも、部門ごとにメーカ、システムを選択、導入し、最適な医療情報システムを構築するマルチベンダ化が進んでいます。このような状況で効率的なシステム開発のため、標準化が必須となっており、放射線検査の分野では、いち早く標準化の取り組みが行われています。一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（以下 JAHIS）では、HL7 Ver.2.x に基づいて、関連する医療情報システムへの適用を可能とする放射線データ交換規約を開発しました。

【規格の適応領域】

医療機関内の放射線検査依頼・実施報告などの病院情報システム（HIS :Hospital Information System）、放射線情報システム（RIS: Radiology Information System）、医用画像保管通信システム（PACS: Picture Archiving and Communication System）、レポートシステム（Report System）間での会話型通信を用いたデータ交換が可能です。

当規格の放射線検査関連システムにおけるメッセージの適用については、大きく分類すると以下の通りです。医用画像保管通信システムやレポートシステムから放射線情報システムへの状態通知や、モダリティとの通信は対象にしていません。

- ・ 放射線検査依頼

一般オーダメッセージを扱っています。

- ・ 放射線検査通知、放射線検査実施報告イメージングオーダメッセージを扱って

います。

- ・ 患者到着通知

患者到着確認メッセージを扱っています。

- ・ 患者情報照会

患者情報照会メッセージを扱っています。

- ・ 患者情報通知

患者情報管理メッセージを扱っています。

また、放射線検査依頼、放射線検査通知、放射線検査実施報告では、JJ1017 コードを採用しています。JJ1017 コードの最新版については、日本画像医療システム工業会のホームページ <http://www.jira-net.or.jp/> から入手できます。

【関連他標準との関係】

関連他標準としては、JAHIS 標準類、IHE（Integrating the Healthcare Enterprise）、経済産業省の実証事業「医療情報システムにおける相互運用性普及推進プロジェクト」との関連があります。

医療情報システムは、電子カルテシステムやオーダエントリシステムといった基幹系の情報システムや、放射線システム、内視鏡システム、臨床検査システムや医事会計システムといった部門システムとが統合されたシステムとして機能するように構成されています。このような部門システムとの連携として、JAHIS 放射線データ交換規約をはじめ、JAHIS 内視鏡データ交換規約、JAHIS 臨床検査データ交換規約、JAHIS 生理検査データ交換規約があります。

また、IHE は臨床現場における実務において、情報システムがその業務を支援する個々の場面でどのような情報を、HL7 や DIOCM の具体的なメッセージによってやりとりするかを規定したテクニカルフレームワークと呼ぶガイドラインを提供しています。尚、IHE-J の放射線検査分野では、通常運用ワークフロー（SWF : Scheduled Workflow）等に関するテクニカルフレームワークを提供しています。また、これらの中の主な成果物は「医療情報システムにおける相互運用性普及推

進プロジェクト」での放射線検査分野において、実装ガイドラインとして提供しています。

【規格の入手方法】

JAHIS 下記サイトから入手できます。
http://www.jahis.jp/jahis_hyojyun/seiteizumi_hyojyun/

JAHIS の上記サイトでは、放射線データ交換規約として、最新バージョンならびに過去バージョンもあわせて掲載されています。また、他部門システムでのデータ交換規約を入手することもできます。

【メンテナンス状況】

放射線データ交換規約は、HL7 準拠で作成しています。HL7 の放射線検査関連を指針にし、メンテナンスを行っています。放射線データ交換規約は、技術や診療提供の現場の環境の進化によって適宜改訂されなければなりません。JAHIS では規程で 3 年以内に改廃の再検討を行い、必要に応じて改訂することになっています。その際、二通りの保守のプロセスが用意されています。一つは是正提案（CP：Change Proposal）で、もう一つはサブリ

メント（Supplement）です。CP は、規格開発の段階で発見されなかった誤りや開発後に必要となった追加項目などの修正提案であり、次の改版までの暫定条項です。サプリメントは、規定の標準と関連しつつ、別の新たな技術的な対応が必要となった場合等に追加する補遺的な規格文書です。

【現在の改版状況】

2011 年 7 月現在、JAHIS 放射線検査データ交換規約の最新版は、2011 年 3 月に JAHIS にて制定された JAHIS 放射線データ交換規約 Ver2.2 となっています。本規約は、HL7Ver2.5 準拠で作成されており、検査依頼メッセージ、実施報告メッセージが可能となっています。JAHIS 放射線データ交換規約 Ver2.1 については、引き続き利用することは可能ですが、極力 Ver2.2 を利用することを推奨いたします。Ver2.1 はどこかの時点で廃棄する予定です。JAHIS ホームページで状況を確認の上ご利用ください。また、IHE-J 放射線検査テクニカルフレームワークとの整合性を保っています。

申請先: HELICS事務局 御中

医療情報標準化指針提案申請書(新規・更新・追加・廃止)

申請受付番号	HS017	事務局受付日	2011年4月19日	申請日	2011年4月19日
提案申請団体名 ・責任者名	公益社団法人 日本放射線技術学会 学会長: 真田 茂		規格作成団体名 ・責任者名	公益社団法人 日本放射線技術学会 学会長: 真田 茂	
提案規格案名 (版数)	和名	HIS, RIS, PACS, モダリティ間予約, 会計, 照射録情報連携 指針バージョン3.2 (JJ1017指針 Ver 3.2)			
	英名	Interoperability Guideline for Scheduling, Accounting, and Radiation Logging between HIS, RIS, PACS, and Modality Version 3.2 (JJ1017 Guideline Ver. 3.2)			
提案規格案の目的、概要(提案規格案策定経緯及び決定プロセス)	和文	JJ1017指針は、「予約情報」および「検査実施情報」からなる標準規格の利用指針である。HIS, RIS, PACS, モダリティ間における、予約, 会計, 照射録情報を共通のコード値により円滑に連携可能とすることを目的としている。医療分野における最も典型的なスタンダードとなったDICOM規格に基づき、日本の医療機関における実際の運用に即した連携手法とその手技コードを規定している。			
	英文	JJ1017 Guideline is an implementation guideline to exchange "procedure scheduling information" and "performed procedure information". This guideline has an objective to smoothly exchange information for Scheduling, Accounting, and Radiation Logging among HIS, RIS, PACS, and Modality. Fully conforming to the DICOM Standards which have been a most successful among the medical communication standards world-wide, this Guideline suggests additional rules for implementation and provides procedure codes to be commonly used among medical institutions in Japan.			
提案規格案の申請理由、適用領域、使用方法 (1)申請理由: 放射線領域における情報連携の標準化を推進するため、必要なコード値及びその利用法に関する規格を申請する。 (2)適用領域: 医療機関における放射線検査全般の指示及び実施内容の確定を目的とした手技コード及びその伝達が必要な範囲で、レセプト等の診療報酬請求対応は含まない。 (3)使用方法: DICOM及びHL7規格を用い、規定された領域に本指針が提案するコード値を代入する。					
関連他標準との関係(相違点及重複点の取り扱い方) (1)HL7規格、DICOM規格、JAHIS放射線データ交換規約、IHE-放射線における統合プロフィールと関係する。					
提案規格案の関連情報	メンテナンスの方法(バージョン管理も含む) 公益社団法人 日本放射線技術学会 にて、必要時に改訂を行う。				
	入手資格 特になし。				
	入手方法: (公社)日本放射線技術学会医療情報分科会のWebサイトよりダウンロード可能。(http://www.jsrt.or.jp/97mi/JJ1017b.html)				
	有効期限 特に期限設定なし。				
	価格等 無償				
	知的所有権: なし 著作権: なし				
	添付資料 なし				
実務運用上の連絡者	・奥田 保男 ・TEL: 043-206-4185 ・E-mail: y_okuda@nirs.go.jp				

特記事項	(http://www.jsrt.or.jp/97mi/JJ1017b.html)
------	---

※更新・追加・廃止の時は、以下の一項を選択し、旧規格名(和名)を記載する。	
指針の更新・改廃 の場合の旧規格と の関係	
更新時の新旧の相 違点	

※申請した指針は、毎年5月末までに見直しをお願いします。
 事務局から問い合わせが行きますので、必要に応じて更新などの手続きをお願いします。
 (2009.05.19 改版)

HS017

【規格名】

(和名) HIS, RIS, PACS, モダリティ間予約, 会計, 照射録情報連携 指針バージョン 3.2

(JJ1017 指針 Ver. 3.2)

(英名) Interoperability Guideline for Scheduling, Accounting, and Radiation Logging between HIS, RIS, PACS, and Modality Version 3.2 (JJ1017 Guideline Ver. 3.2)

【規格の目的】

JJ1017 指針は、放射線領域における、「予約情報」および「検査実施情報」について、標準規格

(HL7・DICOM) を利用し、国内法に則り適切に連携することを視野に入れ策定されたコード及び規格の利用方法に関する指針で、HIS, RIS, PACS, モダリティ間における、予約, 会計*, 照射録情報を「共通のコード値」を用いて、円滑に連携可能とすることを目的としている。

*この場合の会計は実施実績の返信を指す。

具体的には、DICOM 規格における MWM (Modality Worklist Management) 及び MPPS (Modality Performed Procedure Step) に基づき、検査予約情報をシステムからモダリティへ連携登録可能な環境を実現したり、検査実施情報をモダリティから取得の上、**オーダー元**に実績送信するための手法を提案するなど、国内の医療機関における実際の運用に即した **HIS・RIS・PACS・モダリティ間の**連携手法及び、その手技コードを規定している。コードの組み合わせとなるコードセットには、構造化による拡張性（複合コード化）を確保し、診療報酬体系への展開を充分視野に入れ、統計やエビデンス解析を容易としながらも、日本国内で多用される、撮影・検査・照射指示について、詳細かつ正確な伝達を可能としている。

また、DICOM を扱わない領域 (HIS/RIS 間における連携等) については、HL7 に基づいた実装 (具体的には、JAHIS 放射線データ交換規約等) 手法を提案しており、非 DICOM 領域の標準規格

とも十分な整合が取れている。

【規格の適応領域】

放射線業務で情報連携が想定される、放射線領域を中心とした関連領域内 (HIS・RIS・PACS・モダリティ間) で、**手技コードベースの指示情報連携が成立する範囲。(レセプト電算コード等の医事会計領域対応は含まない。)**

【指針の標準化により期待される効果】

- 1、HIS・RIS・PACS・モダリティ間の何れにおいても、共通の連携値を用い、変換ミスや疑義照会を減らし、医療安全に資する。
- 2、モダリティで発生する、諸情報 (照射条件等の照射録情報を含む) から、診療報酬算定に必要な検査実績情報まで、幅広く正確に表現可能で、本指針の採用により、情報の可用性・信頼性が向上すると共に、放射線領域における情報の網羅的収集に資する。
- 3、本指針の普及により、インタフェース仕様の標準化が促進され、システムや医療機関を越えた、コードセットの展開が期待される。
- 4、放射線情報システムにおけるマスタ構築の効率化や検査概念の標準化に資する。

【関連他標準との関係】

本指針は、HL7 や DICOM など標準規格への整合性も完全に確保しており、JAHIS 放射線データ交換規約での採用を想定している。また、IHE-J の SWF (Scheduled Workflow) 統合プロファイルでも採用が推奨されている。この様に、JJ1017 指針は、各規格との整合を実現した、放射線領域における国内唯一のコード体系である。

【規格の入手方法】

本指針は、(公社) 日本放射線技術学会の医療情報分科会 Web サイト内から誰でも無償にて入手可能である。

<http://www.jsrt.or.jp/97mi/JJ1017b.html>

【メンテナンス状況】

本指針のメンテナンスについては、公益社団法人

人日本放射線技術学会の**学術交流委員会医療情報関連小委員会**が窓口となり、関連学会・業界団体と連携しながら実施される。特に本指針の構造に関するメンテナンスは、社団法人日本画像医療システム工業会（JIRA）及び、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）との枠組みにより確保されている。

また、コード値の部分については、**日本放射線技術学会**により、**JAHIS・JIRA・日本医療情報学会・日本医学放射線学会・日本核医学会・日本核医学技術学会**との連携を確保し、必要に応じたタイミングでのメンテナンスを実施する。

【現在の改版状況】

2001年に初版がリリースされ、その後2003年には改訂して Ver. 2.0 が発表された。引き続き2005年には、指針の利便性、網羅性を更に向上させ、医療機関への実装を促進されることを強く願ってデザインされた JJ1017 指針 Ver. 3.0 への改定が行われ、放射線領域における標準的マスタコードとしての位置付けを確実にした。

2009年には、放射線治療領域においても十分な運用を可能とするべく、コードの追加作業が進められ、Ver. 3.1 となる小改定が行なわれた。

今回申請する指針は、2010年に核医学領域におけるコードの拡充を願う声により、日本核医学会を中心とした核医学領域への拡張提案が行われ、JJ1017 委員会として審議の結果、指針への統合が決議されたことで誕生した Ver. 3.2 である。

【その他】（現状及び現状に対する危機意識）

現状、多くの医療機関において、個別の仕様やコードマスタが数多く乱立しており、国内における一貫性が全く取れていない状況が進行している。

この状況は、ベンダの自由な選択や標準規格の採用を阻害する可能性があり、市場の自由競争を促す観点からも望ましくない。一方、一部の医療機関では、本指針を実際に実装し、臨床現場で安定稼動可能なことを証明している。

国内における医療情報連携標準化推進の観点か

らも、早期のマスタコード統一が望ましい。

【参考文献】

- 1、IHE 渉外委員会編、「IHE 入門」篠原出版新社 80-88, 170-206, 2005.
- 2、IHE Technical Framework Revision 5.5, HIMSS/RSNA, 4/7/2003.
- 3、JAHIS 放射線データ交換規約
- 4、経済産業省平成 16 年度 先導的分野戦略的情報化推進事業（医療情報システムにおける相互運用性の実証事業）「IHE-J を用いた相互運用性に関する放射線部門を題材としたショールーム型実証事業」 事業成果報告書 学校法人 埼玉医科大学 2005 年
- 5、経済産業省平成 17 年度 医療情報システムにおける相互運用性の実証事業 「IHE-J を用いた相互運用性に関する放射線部門を題材としたショールーム型実証事業」 事業成果報告書 学校法人 埼玉医科大学 2006 年
- 6、経済産業省平成 18 年度 医療情報システムにおける相互運用性の実証事業 「IHE-J を用いた相互運用性に関する放射線部門を題材としたショールーム型実証事業」 事業成果報告書 学校法人 埼玉医科大学 2007 年
- 7、HIS・RIS・PACS-モダリティ間 予約、会計、照射録情報連携 指針 バージョン 3.0（JJ1017 指針 Ver 3.0）ドラフト 日本画像医療システム工業会（JIRA）・保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）：2005 年
- 8、HIS・RIS・PACS-モダリティ間 予約、会計、照射録情報連携 指針 バージョン 3.1（JJ1017 指針 Ver 3.1） 日本画像医療システム工業会（JIRA）・保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）：2008 年

以上